

基礎 4 埼玉の地形と災害 指導資料

1 目的

埼玉県の地形分布の概要を学習した後、自分の学校がどのような地形の場所に立地しているのか、身近な地形について調べる。また、地形の特徴によって様々な災害を受けやすさが異なることを知る。

2 中学校までの既習事項

土地の隆起や沈降によって地形が作られていることを学習している。また、火山・地震・洪水等の地盤災害についても学んでいる。

3 実習間のつながり

地形の形成には、地殻変動や氷期・間氷期の海水準変動が大きく関わっている。ここでは、身近な地形に着目するため、大まかな地形区分と特徴について学習した後は、河川と地形との関連とその特性を災害の面から考えさせるようになっている。地殻変動や海水準変動と地形との関わりについては『地形からわかる地球の変動』で取り扱う。また、地形はその場所の地質によって違いが生じる。『埼玉の地質』では埼玉県の地質の概要を扱うので、地形と地質との関連性も考えさせたい。

4 実習上の留意点

自分の通っている学校（住んでいる地域）が埼玉県のどこに位置しているか、どの地形面にあるのか知らない生徒は多い。市町村区分図を参考に、学校周辺の地形を思い起こさせながら自校の位置を確認させたい。「埼玉県東西断面図」は、実際の標高データを用いると地形の違いがはっきりと表れないので、地形の違いがわかるように強調してある。模式的に表現していることに注意する。河川流路図をトレーシングペーパーに写す作業では、丁寧に作業をしないと台地の上を河川が流れることになり、その後の考察につながらなくなるので気を付ける。重ねるときは河川が周囲よりも低いところを流れていることや県境になっていることに気づかせる。

5 実習の所要時間

作業・考察（概要）	25分程度
解説（学校周辺の地形）	20分程度

6 準備するもの

トレーシングペーパー（A5サイズ）、色鉛筆（赤、青、黄、橙、緑、茶）、のり（セロハンテープ）

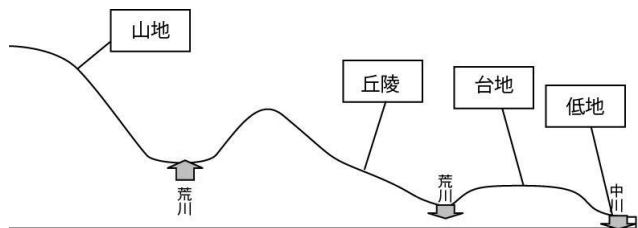


図1 埼玉県の地形 東西方向断面図（河川入り）

7 解答・解説

●結果

(1) 略

(2) 図1参照

図1には河川の流れを矢印で示した。断面は秩父盆地、岩殿丘陵、荒川低地、大宮台地、中川低地を通るような位置をとった（図2）。生徒の地形区分図には、特に断面をとった位置は示していないが、解答に困るようであれば、指示する。

(3) 図2参照。

断面図と流路図を見比べると、河川が周囲よりも低くなっ

ているところ（秩父盆地、荒川低地、中川低地）を流れていることが予想できる。綾瀬川や入間川、荒川の上流の流路に気をつけながら地形区分図に重ねるようにする。

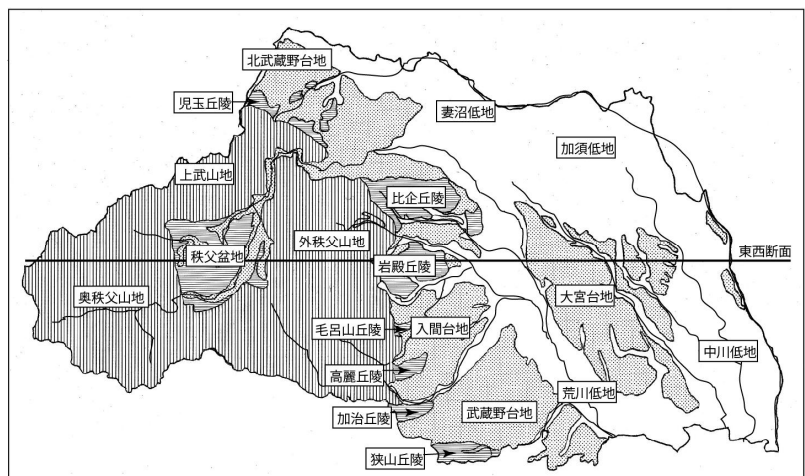


図2 埼玉県の地形区分図（河川流路図入り）

学校が載っている地形図を是非準備してほしい。地形図は書店で購入でき、2万5千分の1縮尺のものが1枚270円である。

●参考文献・URLなど

『埼玉・大地のふしぎ』 埼玉県自然史博物館編 埼玉新聞社

『日本の地形4 関東・伊豆小笠原孤』 貝塚爽平、小池一之、遠藤邦彦、山崎晴雄、鈴木毅彦
東京大学出版会

地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/>

埼玉県震災対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/a1102/ekijyoukanohigaiyosoku.html>